

(熊本工業高等学校全日制) 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標

◇教育目標 **創立120周年・さらなる挑戦 ～積極的な思考力・行動力を持つ人材の育成～**

- 1 心豊かで、礼節を身に付け、志高く自主自律の精神で活力に溢れ、国際化が進む社会に貢献できる有為な人材を育成する。
- 2 進路実現に向けて自分の可能性に挑戦し、自己実現を図る人材を育成する。
- 3 ものづくり教育の充実や学校行事、部活動の活性化を図るとともに、将来において心身ともに健康で、社会人・職業人として自立し共生する人材を育成する。

2 本年度の重点目標

平成30年度県立学校における教育指導の重点のもと「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を根幹に、学育、心育、体育を基本とし、「敬愛・努力・感動」を合言葉に、各項目を本年度の具体的取組とする。

1 基礎・基本の充実・定着

- ・自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決していく資質や能力、すなわち「生きる力」の育成に努める。
- ・分かる授業、生徒が意欲的に取り組む授業のための指導方法・教材等の工夫・改善に努める。
- ・朝読書をとおして、知性や感性を豊かにするとともに、集中力を高め、落ち着いた学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。

2 工業教育の充実

- ・専門高校の特色を生かした資格取得を奨励し、計画的な指導の実施及び産業界に貢献できる人材の育成に努める。
- ・ものづくり教育をとおして、困難な課題や問題に果敢に挑み、自らその解決に試行錯誤を繰り返して努力し、乗り越えていくことで、自立心や創造力を培うことができる人づくり教育に努める。
- ・SPHの取組において、産学官との連携・協働による災害に強い人材循環型学校・まちづくりを推進できるエンジニアの育成を目指す。

3 基礎的生活習慣の確立

- ・5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を推進し、落ち着いて学業に専念できる環境の整備に努める。
- ・規範意識を向上させ、社会人として自立し、共生する人格の育成に努める。
- ・2A運動の徹底に努める。 「当（A）たり前のことを、当（A）たり前に」「安（A）全で、愛（A）校心を育む環境に」

4 キャリア教育の振興・推進

- ・キャリア教育を意識した進路指導の充実と進路保障に努める。
- ・進学・公務員及び企業への進路保障に必要な組織的な受験対策とその支援に努める。
- ・勤労体験や奉仕活動をとおして、職業観や奉仕の精神の育成に努めるとともに、コミュニケーション能力を身に付けた生徒の育成に努める。

5 部活動の活性化

- ・スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に努める。
- ・文化部及び体育部活動の活性化により、健全で充実した学校生活の支援に努める。
- ・文武両道を推進し、知（確かな学力）、徳（豊かな心）、体（健康な体）のバランスの取れた生きる力を育む。
- ・それぞれの個性・能力を持った生徒が目標達成のために団結し心を一にして挑戦するなかで、充実感・達成感を味わい体力はもとより忍耐力・精神力を養う。

6 人権教育の推進

- ・人権尊重の精神のもと、全教育活動をとおして「心に届き」「心を揺り動かし」「心を豊かに」する心の教育に努める。
- ・教育の根幹に人権教育を捉え、生徒にしっかり寄り添い、生徒一人一人を大切にした教育に努める。
- ・思いやりの心を育て、挨拶を交わし、明るく活気のある学校づくりに努める。

7 グローバル化に対応した教育の推進

- ・英語教育の充実をはじめ、国際理解教育や国際的な職業への関心を喚起する取組を推進し、国際的な産業競争力の向上や国際間のきずなの強化等のグローバルな舞台上積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図る。
- ・郷土に誇りを持ち、自然や文化・伝統を大切にすることを育み、グローバル社会に対応できる技術革新、情報収集できる能力の育成に努める。
- ・朝の英会話放送をとおして、英語の聴解力や読解力を高めるとともに、集中力を高め、落ち着いた学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の経営方針の徹底	・教育目標・教育方針を周知徹底した結果の生徒や保護者の理解度	・職員アンケートで学校目標の理解を100%に近づける。	・本年度の重点目標を職員会議で明示し徹底 ・朝礼及び育成面談などを利用して、機会ある毎に重点目標を徹底 ・主任主事を通じて全職員に徹底	A	・現校長2年目となり、今年度創立120周年を迎えるにあたり「さらなる挑戦」という教育目標を掲げている。実習棟改築工事の最中ではあったが、記念式典も成功裏に終わり、生徒たちの凜々しい姿からこれから先150年、200年と本校が飛躍していくことを確信した。ただ、毎日の掃除の徹底やあいさつ、遅刻・欠席などの基本的な生活習慣の確立においてはまだまだ課題があり、来年度、掃除の日課を変更して徹底させる予定である。
			・保護者アンケートで学校目標の理解90%以上	・保護者会や学年保護者会等を利用して周知 ・保護者会新聞「清流」やホームページ活用での周知		
	保護者との連携	・保護者会役員との連携及び保護者会活動の活性化	・保護者会役員会の開催年間10回以上 ・様々な保護者会活動のPR	・保護者役員会を定例化し、学校と保護者の連携を強化するとともに、併せて出席についても働きかけを依頼 ・保護者会年次総会時に年間の行事予定表を配付すると共に、学校のホームページ等を利用した日頃の活動の紹介	B	・本年も毎月定例役員会を確実に実施し、保護者会として組織的活動に繋げることができた。成果として保護者会バザー等の全保護者を対象とした活動も実習棟改築工事で様々な制限がある中、積極的に参加されていた。保護者会の出席率については、第1体育館の復旧工事が終わったものの、工事の関係で駐車場が確保できず約62%と昨年並みの出席率となった。
	目標の達成に向けての取組	・各部各科の取組と本目標達成との整合性	・年度末に本評価で、B評価以上が昨年度の80%以上 ・工業科主任連絡会の月2回の開催	・主任・主事との報告・連絡・相談を密にして取組の現状と課題を把握 ・工業科主任連絡会において、各科の取組や情報を共有し広い視野を持って業務に当たる。 ・適切な指導助言により管理職と職員が一体感を持ちながら取り組み、組織的な校務運営による目標達成	A	・改築工事の影響で生徒の安全な通行や外部からの来校者の駐車に課題が生じる状況であるが、職員間の連携や安全に対する配慮により、様々な行事も大きな問題なく遂行できている。文科省指定のSPH事業も工業科、特に3科を中心に特色ある取組を行っている。また、わかりやすい授業の推進のため、各教室に電子黒板機能付きのプロジェクターとスクリーンを設置したことにより、授業の評価が昨年よりも上昇した。進路においても、企業就職試験の1次での合格率は95.6%で、3年連続で増加した。前期（特色）選抜志願者数は、過去最高となった一昨年を下回ったものの、昨年比プラス21名と生徒数減少の中でも健闘し高い倍率を維持することができた。
学力向上	計画的な学習指導の充実	・計画的な学習指導と適正な評価	・年間をとおした計画的な授業、基礎学力定着と技能の習得 ・課題解決のための「思考力・判断力・表現力等」の育成	・育成を目指す資質・能力の明確化 ・年度当初におけるシラバス作成及び、最初の授業での周知徹底。 ・授業中の活動やレポート・作品・発表等生徒の個に応じた適切な評価による生徒の意欲向上	B	・学習指導要領の改定に向けて、育成を目指す資質・能力の明確化を意識するため、研究授業における指導案の様式を変更した。 ・シラバスは年度当初に作成し、生徒への周知を行う流れができている。こちらについても学習指導要領改定に向けた様式変更を検討していきたい。 ・授業アンケートの結果は生徒個人の回答結果を整理し授業者へ返却することで、個に応じた指導ができるようにしている。

	授業内容の工夫・充実	<ul style="list-style-type: none"> 分かる授業の実践 興味関心意欲を向上させる授業の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価「とても分かり易い」50%以上 授業評価「授業により学習への興味関心意欲が向上」40%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の拡充 授業改善職員研修の実施 研究授業・公開授業の更なる活性化 授業アンケートによる生徒の実態把握 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価における「とても分かり易い」の項目は49.4%であり、昨年度から3.3P向上し、目標の50%まであと一息の所までできた。 「授業により学習への興味関心意欲が向上」の項目は36.8%で昨年度から4.7P向上した。 全ての教室に電子黒板機能付きプロジェクタを導入したハード面と、研修等のソフト面の両面が充実したことにより成果として表れたものと捉えている。
	基礎学力の充実	<ul style="list-style-type: none"> 積極的かつ意欲的に取り組む姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期末における欠点保持者数を昨年度比減 5S活動の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、各種テストに向けた事前・事後指導の徹底 家庭学習での5Sの意識付け、学習環境の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期末における欠点保持者数は、全学年で96人であり、昨年度の130人から大幅に減少した。 クラス平均点は昨年度と変わらない結果であった。
	資格取得での学習意欲高揚	<ul style="list-style-type: none"> 各種資格検定試験へのチャレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> ジュニアマイスター認定者数の昨年度比増 	<ul style="list-style-type: none"> 各科を中心とした資格取得指導の充実 ジュニアマイスター認定を目標とした資格取得に対する意識付け 	B	<ul style="list-style-type: none"> ジュニアマイスター認定者数は181人と、昨年度から5人減となった。 学習状況調査の結果からは資格取得が学校選択の主な理由の一つと挙げる生徒が126人いた。今後とも資格取得を学習意欲の向上にも繋げていきたい。 資格取得による単位認定は継続実施している。
キャリア教育（進路指導）	学校紹介就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校紹介就職希望者の進路実現に向けた学年・各科・地域社会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 就職採用試験一次応募での合格率90%以上 学校紹介就職希望者の年内全員内定 県内就職率の前年度比10%増 	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標の早期確立を目指す生徒・保護者への継続的かつ適切な進路情報の提供 地元企業との積極的な情報交換による相互理解の深化と県内就職者の増加に繋げていく取組の強化 社会人・職業人としての自立を促す5S活動や2A運動、ものづくり教育・グローバル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一次応募での合格率は95.6%（過去最高を更新、昨年比+2.0p）となり、11月中旬までに100%就職内定という結果を得ることができた。 県内就職を強く意識した指導を行ってきたが、「空前の売り手市場」の下、県外の大手企業からの攻勢もあり、県内就職率は昨年と同様の40%程度に留まった。ただし、県内企業求人において、技術職だけでなく事務職など職種の拡がりもみえ、次年度以降の県内就職者の増加が期待される。
	公務員就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 公務員就職希望者の進路実現に向けた学年・科・官庁との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 公務員就職希望者の90%以上の最終合格率 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的な出願・受験（特に技術職への応募）を促す個人面談や外部講師による講座等の計画的実施 課外授業参加への環境づくりと生徒の実情に即したきめ細やかで丁寧な個別指導の充実 生徒が安心して受験に臨むことができる出願手続きに関する指導体制の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> 何か一つでも公務員採用試験に最終合格した生徒は41人、受験者総数に対する合格率は80.4%、就職内定者は昨年と同じ39人となった。 国家公務員一般職の九州地区技術7人、九州地区税務1人、熊本市事務1人など、難易度が高い職種にも多数最終合格することができた。 課外の出席率が例年より低かった。面談等で1点の重みを伝え、課外への出席を促し、意欲的な出願・受験に繋がるように指導していきたい。
	進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進学希望者の進路実現に向けた学年・科・上級学校との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学進学希望者の80%以上の合格率 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の目標実現に必要な進学への意識を高め、自ら学習する姿勢を育む計画的なキャリア教育の推進 生徒の能力を最大限に引き出す進学指導の強化と、課外や模試、進学プログラムへの参加促進 面接指導はもとより、各科との連携によ 	B	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学のAO入試では志願者7人中3人、推薦入試Iでは13人中7人が合格した。AO試験の形態が変わってきており、専門だけではなく英語数学の口頭試問に備え、課外をきちんと受けさせなければならない。 山口大学の経済学部など、文系学部専門高校卒を使わずに合格することができた。数十回にわたり小論文の添削を受けて様々なテーマに対応できるよう知識を広げ、

				る専門教科課外、小論文指導の強化・充実		自信を持って受験した成果である。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成	・出席率向上	昨年度比 ・遅刻 20%減 ・欠席 30%減 ・皆勤、精勤者計80%達成	・早朝からの登校指導による声かけ指導を充実させ、担任、科、部活動顧問との連携強化 ・情報交換会による生徒の状況を把握し、早期対応に取組み改善に努めるまた、教育相談部、関係部署と連携して長欠者の減少を図る。	C	・2学期に入り1~3年生の欠席者数が約2.5倍~約1.42倍増加している。 ・H27年から無欠席者率が90%を切つて以来、減少傾向が続いているのが気かりである。 ・各学年ともに夏休み以降の2学期にルーズさが目立つ傾向が強まっている。
		・身なり（服装髪）の徹底	・服装違反数（登校指導）昨年度比20%減	・登校指導での服装指導と検査の充実 ・連携指導による徹底指導と意識の高揚	B	・頭髪服装検査は学期最初に基準確認のため複数の科担当者での検査を行った。検査方法も見直し、現在のところ減少傾向にある。 ・3年生の進路決定後の崩れに歯止めをかけるまでには至らなかった。毎日生徒と顔を合わせている担任の先生との連携強化が必要である。 ・登校指導での違反件数は今年度も減少している。朝の課外と練習に来ている生徒への指導も課題である。
		・交通規則遵守	・事故、違反件数昨年度比50%減	・交通講話等をはじめとする交通教育の充実と現地（学校付近危険箇所等）での登下校指導の実施	C	・件数的に増加に転じている。救急搬送された事故、加害事故も発生したことに関しては、非常に責任を感じている。繰り返し指導、呼びかけを行っているが交差点付近での事故が大半を占める。左右確認、一旦停止などを確実に行えば防げた事故もあったと思う。命に関わることなので、指導徹底を図りたい。 ・校外でのクレームにおいては、当日及び翌日等に職員を配置して指導、事故多発地点や危険箇所は登校指導時にローテーションを組み職員を配置し事故予防に努めたため繰り返しのクレーム・事故発生には至っていない。
		・規範意識高揚	・特別指導件数全校生徒数の1%以内 ・5S活動の実践 ・2A運動の徹底 ・情報モラルの育成	・創立120周年を機に、学級・学年・科・部活動等様々な機会をとおして熊工生としての自覚を促し、自律心の育成と指導の徹底を図る。 ・スマホ、ケイタイ安全教室の実施	C	・特別指導件数は5件5名と増加した。その他、大きなトラブル・問題に発展しかねない事例も発生し指導を行ったが、自分勝手に安易な行動、自己中心的な考え方によるものが多く、規範意識の低下を強く感じている。時機をとらえながら、継続的な指導を行い、未然防止に努めたい
		・防犯意識高揚	・盗難被害件数昨年比50%減 ・自転車二重ロック施錠率95%以上	・自己管理能力向上に向けた継続的指導の実施。学校行事等においては、校内巡視など警備の充実を図る。 ・毎月26日を二重ロックの日と定め、生徒会と連携しての声掛けの実施・点検を行うことにより、施錠率の向上と無施錠自転車ゼロを目指す。	B	・今年度も、1学期は盗難が起こらなかったが、心配していた2学期に入り4件の盗難が発生した。共同で使用する部室での盗難については、各部においても貴重品、施錠の管理を徹底してもらっている。 ・毎月26日を交通委員とともに二重ロックの呼びかけ及び点検を行った。交通委員に限らず、他の委員会との連携もさらに深めていきたい。

人権教育の推進	人権教育推進体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育推進委員会の充実 ・ LHRの充実 ・ 人権教育指導の共通意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5回の推進委員会の開催 ・ 綱領「友愛協調」に根ざした社会人に相応しい人権感覚の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「5S活動」、「友愛協調」精神の全職員での指導 ・ LHRにおける「情報モラル」、「身近な人権課題」の学習 ・ 「言わない・書かない・提出しない」の徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進委員会については、各学期の人権教育LHR、人権教育講演会の前に実施を徹底し、7回行うことができた。 ・ 「情報モラル」については生徒指導部と協力し、また「身近な人権課題」については各学年のLHRで学習できた。 ・ 職員、生徒の共通認識のもとに十分指導ができた。
	研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内、校外研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員の積極的な校外研修への参加 ・ 教職員の人権資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校外研修では、研修の意義を伝え、できるだけ多くの選択肢を紹介し、参加を呼びかける ・ 校外研修の書面による復講及び報告 ・ 「いじめ」の構造についてのさらなる理解 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修では、2人の先生方からの実践報告をレポート研修として全職員に対して実施した。15項目の研修を紹介し参加を呼びかけたが、昨年46.0%だった校外研修の参加希望率は39.1%に減少した。 ・ 概要と感想を代表者に書いてもらい、全職員に共有した。 ・ 「いじめ」の構造については、防止委員会で情報を共有できた。
	命を大切にする心を育む指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の生命を尊重する心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員によるあらゆる教育活動での多角的なアプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科において授業内容との関連付け ・ LHR、学年集会、全校集会等での実施 ・ 進路教育、人権教育、安全教育等との関連付け ・ 5S活動への関連付け ・ 外部講師による講演の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの教科で行ってもらった。 ・ 各学年を中心に実施してもらった。 ・ 各校務分掌と協力してできた。 ・ 各集会での機会ある毎に行うことができた。 ・ 講演を通じ、自分の命は自分だけのものではないことを理解し、自他の命の大切さをさらに確認することができた。
いじめの防止等	いじめ防止推進体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止対策委員会及び部会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ問題に組織的に迅速に対応できる職場環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な実態調査、情報交換会からの早期発見、早期対応 ・ 教師の気づき、生徒・保護者の通報、キッズサインへの迅速対応 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止対策委員会、情報交換会を合計年5回開催。実態調査の報告、学校カウンセラーからの御助言等もいただきながら意見交換を行った。 ・ 各学年から出席状況や学校生活の様子、気になる生徒などについての情報交換を行い、未然防止や早期発見に繋がるよう取り組んだ。
	研修及び啓発の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ問題の認識、防止への意識高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ問題の共通理解と未然防止へ取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止月間を設け、LHR、講話等啓発活動の取組 ・ キッズサインの周知、登録の呼びかけ ・ アンケートや感想文をととした定期的な実態調査。 ・ 教育相談、スクールカウンセリングの活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊工いじめ防止月間、学校生活アンケートの実施など年間をとおして計画的に取組を行った。 ・ 情報交換会により早期発見・実態把握に努めるとともに、教育相談やスクールカウンセラーと連携して取り組めた。 ・ 外部講師による「ケイタイ・スマホ教室」を実施し、携帯電話利用に起因するトラブル、いじめ撲滅への意識高揚を図ることができた。
地域連携	防災型コミュニティスクール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災型コミュニティスクールの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学期1回以上協議会を開催し、地域に根差した防災システムについてさらに検討を重ねる。 ・ 地域の課題に即した避難所運営の在り方をさらに検討する。 ・ 協議会が出した方向性を各部署、各機関と連携し実現・徹底を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所開設・運営を担う「校区防災連絡協議会」の設立ができていない現実があって、地域との協力体制づくりをすすめるための協議会の開催ができなかった。 ・ 2月に「砂取校区防災連絡協議会」の設立に向けた事前協議会に参加し、来年度に向けた各機関と連携を図りたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・災害に適切に対応できる学校運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの活用 ・避難訓練の実施 ・防災研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性に合わせた防災マニュアルの活用、避難訓練、防災研修の実施を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の取組を見直し、事前指導として一斉放送を利用したシェイクアウト運動と各HRにおいて、「10分で確認する地震対策シリーズ」と「熊本地震を忘れない」のビデオ放映を実施した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・災害後のサポート体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートの必要性の把握と対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・心的サポートが必要な生徒の把握と適切な対応を図る。また、ハード面でのサポートが必要な施設の把握と適切な対応を図る。 ・適切なサポートに向けて、さらに関係部署との協力を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度より文部科学省指定「SPH」を受け、「産学官協働により災害対応型エンジニアを育成する」をテーマに掲げて、三科で取り組んでいる。さらに、来年度は全科で取り組む予定である。
工業教育	ものづくり教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり教育を通して我が国や地域社会に貢献できる人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業教育における知識や技能、技術の習得及び5S活動と2A運動の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や座学の各授業での分かりやすい授業・面白い授業による学習意欲の喚起、学力及び技術力の向上 ・5S活動と2A運動を通した落ち着いた学習環境づくり、規範意識向上による「安全」と「環境」を考えた教育の実践 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・8割以上の生徒が授業は理解できていると答え、前年比+2.9P、とても分かりやすい授業と答えた生徒が前年比+2.1p、授業により学習への興味関心意欲が向上したと答えた生徒が前年比+4.6p等、授業への取組み姿勢や学習意欲の向上が窺える。 ・5S活動に伴う整理整頓や掃除ができていると答えた生徒は前年比+1.4Pと、僅かであるが向上が見られる。
			<ul style="list-style-type: none"> ・各種コンテスト・競技大会等における全国大会出場を目指した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会を意識した早めの準備と年間をとおした計画的、継続的な指導 ・熟練技能士を招いた実技研修会などによる指導者のスキルアップ 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりコンテスト県大会では電気工部門、化学分析部門、木材加工部門で金賞の他、銀賞（化学分析部門、家具工芸部門）、銅賞（家具工芸部門）、九州大会では化学分析部門で2位だった。九州地区高校生溶接技術競技会は、県大会で個人の部優勝、九州大会出場。九州大会では個人の部優良賞だった。
			<ul style="list-style-type: none"> ・SPHやものづくりをとおした地域貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・SPHや実習、課題研究、工業クラブ活動において地域に貢献できるテーマを実践 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・建築科による益城町広崎天満宮の祠製作・寄贈、インテリア科による杵の製作および地元町内会への寄贈ならびに餅つき大会への参加等実践した。
	資格取得	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる資格検定への挑戦を通して、生きる力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアマイスター顕彰者数全国トップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格検定試験の指導での担当者の割当や資料、指導方法などの工夫と効率的な取組 ・更なる上級検定試験へのチャレンジによるジュニアマイスター認定者の増加と即戦力となる人材の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各工業科がものづくりマイスターの派遣、熟練技能士の招へい、目指せマイスター事業の利用等積極的に資格取得の指導に取組んだ。 ・ジュニアマイスター前期認定者は、ゴールド27名、シルバー41名、ブロンズ41名の計109名、後期分は、ゴールド26名、シルバー46名、特別表彰7名である。
部活動	部活動の充実による学校活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・人間性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつなどの礼儀、責任感や協調性などの態度、環境美化などに取り組む奉仕の心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技成績の向上と社会で通用する人間性育成の両立 ・さらなる挑戦を各顧問が意識し、人間性の育成を顧問間で共通理解し指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、礼儀については、これまでと変わらず概ね良好である。環境美化に対する自主性や積極性については、やや物足りなさを感じることもある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・競技成績向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会への個人・団体の出場数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・『全国制覇』を共通の目標とし、各々が切磋琢磨することによる競技力の向上 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会には、運動部の団体競技でソフトボール、ソフトテニス部が出場した。個人競技では陸上競技、水泳、テニス、ソフトテニスが出場した。文化部では、吹奏楽部、マイコン部、放送部が出場した。

		・事故防止	・重大事故の防止 ・怪我件数の減少	・5S活動の浸透、日常の整理整頓と道具管理の徹底 ・顧問や部員に対し安全面の意識づけの徹底	B	・「5S活動」を中心とした安全面については、学校の重点目標であり、意識した取り組みがなされていると感じる。部活動中の重大事故は0件、救急搬送数は2件、怪我は127件だった。
保健安全管理	保健管理	・心身の管理	・健康診断の徹底により、指導を要する生徒の把握 ・特別に支援の必要な生徒を把握 ・感染症の蔓延を防ぐ	・事後措置の徹底、該当生徒への治療勧告書発行による全員実施 ・生徒指導部、教育相談部等との連携による内容の把握と早期対応 ・必要に応じたスクールカウンセラー及び専門医等との連携 ・教務支援システム及び健康観察表による出席停止等の状況把握 ・全国、県下での感染症発生状況の情報提供 ・疑似者を早期把握し、予防のための環境整備	B	・未受検者には、他学年の実施日に受検機会を設けるなどの対応で、完全実施することができた。 また、要配慮者については、関係職員・部署と連携をとることができた。 ・毎日の出席状況を把握することにより、担任・科と連携をとり、必要に応じてカウンセリングの設定や保護者対応に繋げることができた。 ・感染症に関しては、感染性胃腸炎他の報告が年間をとおして若干あった。インフルエンザに関しては、1月現在で1年生1クラスの学級閉鎖をする事となった。
	安全管理	・安全な学校環境衛生の確保	・安全点検の実施 ・衛生検査の実施	・各学期1回、校内安全点検の実施 ・学校薬剤師と連携し、諸検査の実施と事後措置を徹底	B	・環境衛生検査及び安全点検は、計画に沿って実施できた。なお、環境衛生検査については、すべて基準値以内であった。
		・危機管理	・事故防止及び緊急時の連絡体制を周知徹底	・体育的行事等での事故防止 ・部活動顧問等との連携(安全管理と安全教育の徹底) ・アレルギー疾患生徒の把握とアナフィラキシー発現時の対応についての職員への周知徹底	B	・体育的行事や活動において、大きな事故の発生はなかった。 ・部活動においても顧問会を定期的に関き、職員間の連携を深められた。 ・資料を配布し、全職員への周知徹底に努め、本年度赴任した職員に対しては実技研修を実施した。

4 学校関係者評価

本年も5人の学校評議員に20項目について4段階の評価をお願いした。昨年同様全ての項目で肯定的な結果となったが「学校は生活指導をとおして、基本的な生活習慣の確立に努めている。」と「生徒は社会で通用するルールや交通ルールを遵守している。」には1人の方が「あまりそう思わない」と記入されている。これは、本校の生徒だけに限らず、一般的に高校生の基本的な生活習慣の乱れや交通マナーの悪さが登下校の電車内や道路で見られるとの理由からである。自転車の登下校のマナーについては、地域の方々から苦情の電話を度々頂いている。マナーの悪さはルール違反に繋がり、交通事故に発展してしまう。今後も生徒指導部と連携しながら登下校指導を行い、機会あるごとに指導していきたい。その他、意見として出されたものを以下に挙げる。

- ・学校の様々な取組は合格点ではありますが、全国に名を轟かすような尖がった学校になってくれることを期待します。
- ・先生方の苦労や努力の様子がよくわかります。元気な生徒を育ててください。
- ・資格取得を中心としての素晴らしい成果を上げている。今後は、アジアからの若者たちと共に働く環境が目前に迫っていることを自覚して、「グローバル教育」を推進していくべきと思う。
- ・公共の場でのルール違反は、生徒たちだけの問題ではない。若いときから社会規範意識を持たせるために、学校での厳しい指導をして欲しい。

5 総合評価

運営委員による学校自己評価（本総括表の3）では、B評価以上の評価は全評価項目の91%を超えることができた。昨年度は80%を切ってしまったので、いくらか改善することができた。ただ、生徒指導面において高い目標を掲げているため、本年度もC評価が目立っている。無欠席者の割合が連続して減少したこと、登下校中の事故も増加し加害事故も発生していること、特別指導を受ける者が増えたことが理由である。

また、保護者アンケートでは、殆どの項目で、評価が上がっている。「学校と家庭とが連携し悩みや相談に親身になって応じている」、「保護者とのコミュニケーションを大切にしている」は5%以上の増加が見られる。一方、「各種コンテストへの参加や資格取得への取組」では若干ではあるが評価が減少している。ものづくりコンテスト県大会では3部門で金賞を獲得し九州大会に出場したがジュニアマイスター認定者数では、愛知県に及ばず全国2位になるなど保護者の期待値までは届かなかったためと思われる。

最後に、職員アンケートでは、全29の評価項目の内、昨年度に比べて「そう思う」の回答がやはり減少傾向にある。ICT機器の全ホームルーム設置に伴い、授業改善に向けた取組は大きくポイントが上がっている。ただ、部活動の活躍や職員・生徒の人権意識の高揚、生徒募集のためのアピールなどにおいて大きく減少してしまった。

実習棟の改築工事が始まり職員・生徒・保護者に不便な思いをさせるとともに、文科省指定のSPH事業もスタートした今年度であるが、創立120周年記念式典や多くの学校行事において、成功裡に終わることができたことは、十分、評価に値するものとする。

6 次年度への課題・改善方策

【課題】	【改善策】
①学校目標の保護者に対する周知徹底	①運営委員会及び各科主任連絡会にて取組の徹底、保護者総会での周知、保護者役員会との連携
②出席率の向上、生徒支援	②担任や科、部活動顧問など組織全体での声かけと早期指導の充実、教育相談部との連携や情報共有、手厚い支援
③交通事故の防止、交通ルールの遵守	③生徒指導部を中心とし、全校集会等の機会あるごとに交通安全教育を徹底する。交通マナーの悪さが事故につながることを理解させる。命を大切にすることを養う。
④防災型コミュニティ・スクールにおける連携の強化	④地域や関係部署との連携を密にし、それぞれの部署の現状をしっかりと把握し連携を図ることで、足並みの揃った体制づくりを推進する。
⑤5S活動と2A運動の徹底	⑤大きな声での挨拶を徹底、さらに、終礼と掃除の日課を入れ替えることで清掃活動の徹底を図る。